

平成21年度

19th

# 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

## 入選作品

- 主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会  
(栗原市、登米市、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
- 後援 宮城県、栗原市観光物産協会、登米市観光物産協会、  
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、  
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、  
毎日新聞仙台支局、岩手日報社
- 協賛 富士フィルム(株)、宮城県写真商業組合

# 入選者

各賞	題	氏名	住所
<b>最優秀賞</b> (宮城県知事賞)	燃える朝	千葉忠雄	栗原市若柳
<b>優秀賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	南国からムラサキサギ	高橋利行	登米市迫町
<b>金賞</b> (栗原市長賞)	伊豆沼の詩	菊地誠一	石巻市貞山
<b>金賞</b> (登米市長賞)	鶴の舞	蛭田敏夫	登米市中田町
<b>銀賞</b> (栗原市観光物産協会会長賞)	該当者なし		
<b>銀賞</b> (登米市観光物産協会会長賞)	ふれあい	赤松敏雄	登米市中田町
<b>銀賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	伊豆沼朝景	佐藤磨	登米市中田町
<b>銅賞</b> (河北新報社賞)	早春賦	千葉稔	登米市豊里町
<b>銅賞</b> (読売新聞社賞)	滑走	佐々木章逸	石巻市吉野町
<b>銅賞</b> (朝日新聞社賞)	秋マガン集結	伊藤孝喜	登米市中田町
<b>銅賞</b> (毎日新聞社賞)	内沼の夏	牛澤陽介	仙台市太白区
<b>銅賞</b> (岩手日報社賞)	静謐な情景	佐藤崇	仙台市泉区
<b>入選</b>	レンコン掘大会	菊池郁子	東松島市矢本
<b>入選</b>	飛翔	早坂昭夫	石巻市蛇田
<b>入選</b>	朝陽の中で	佐藤三枝子	仙台市青葉区
<b>入選</b>	湖沼静寂	佐藤善治	石巻市桃生町
<b>入選</b>	故郷ふるさと	阿部圭吾	登米市石越町
<b>入選</b>	零	伊藤正美	登米市迫町
<b>入選</b>	お花畠の散策	太田竹一	石巻市相野谷
<b>入選</b>	風雪一人旅	日野俊文	宮城郡七ヶ浜町

## 総評

第19回を向かえます、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」も写真コンテストとしてかなり高レベルなものになりました。当然のごとく、今回も素晴らしい作品が集まりました。このフォトコンテストの魅力といえば、やはり鳥の作品ではないでしょうか。ガン、白鳥、カモ、サギなど様々な鳥の作品がたくさん集まりました。鳥に限らず、とても魅力あふれる作品が多数在りました。ですので、入賞することが出来なかった参加者の作品が、決して良くないという訳ではございません。入賞できなかったからといって自信をなくさず皆、胸を張っていいといえます。なにせ一点一点作品を見てどれを入賞させるかとかなり悩む程、高レベルなコンテストでしたので。先ほど鳥の写真が魅力とはいいましたが、それ以外の風景も素晴らしいのがこの「伊豆沼・内沼」です。どんどん積極的に自然と見つめ合うことで素晴らしい風景に出会うことが出来ます。皆様どんどん伊豆沼・内沼の魅力を堪能してください。これからも期待しています。

### フォトコンテスト審査員 竹内敏信



1943年愛知県生まれ。  
名城大学理工学部卒。  
愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。主な写真集「花祭」(誠文堂新光社)、「天地」「天地聲聞」「櫻」(出版芸術社)、「天地風韻」(日本芸術出版社)、「雪月花」(トーキョーセブン)。(社)日本写真家协会会员  
日本写真芸術専門学校副校长  
東京工芸大学  
現代写真研究所講師

最優秀賞（宮城県知事賞）「燃える朝」

千葉 忠雄



**(評)** 朝の沼の雰囲気がよく伝わってくる写真である。群舞する鳥の群れ、及び真っ赤な太陽の雰囲気、シルエットになった鳥の姿がとても印象的です。太陽の形や雲の状況において、文句のつけよう無い状況です。よくある伊豆沼の写真ではあるが、もっともこの雰囲気を伝えてくれるイメージをもっています。この素晴らしいタイミングを見事に表現しているといえるでしょう。

金賞（栗原市長賞）「伊豆沼の詩」

菊地 誠一

**(評)** サギがシルエットに写っている姿が、とても美しい作品です。同時に、湖面に浮かぶ残り茎が、面白い形になっていて、そこにちょうど良い形で、サギのシルエットが、くっきりと写っています。水面の波紋が、とも美しく優雅に歩く様子が目に浮かび上がっていきます。こういった風景は人々の目を引きつけるでしょう。



## 優秀賞（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞）「南国からムラサキサギ」 高橋 利行



(評) サギが、「さあ、これから仕事をするか」という、意欲を感じられます。足先から、水しぶきが、そして羽の形や足の形、全体の羽ばたきの姿に意欲が感じられます。一瞬の出来事であるが、未来に羽ばたくというイメージも見えてくるところも素晴らしいです。同時に、背景の水草の姿のぼかしごあいもちょうど良く、サギを強調させています。ぼかしごあいで、沼の雰囲気が伝わってくるのもまた、いいです。

## 金賞（登米市長賞）「鷺の舞」 蝙田 敏夫

(評) 12~13羽のサギのシルエットが、捉えられています。サギのそれぞれの姿に個性がありとても面白い姿をしています。こういう時間が、あるのもこの沼の面白い所です。赤く染まる、湖面に写るサギの姿もまた美しいです。作者はとても考えて捉えていると思います。いい瞬間も見事に捉えた良い作品です。



銀賞（栗原市観光物産協会会長賞）

該当者なし

銀賞（登米市観光物産協会会長賞）「ふれあい」

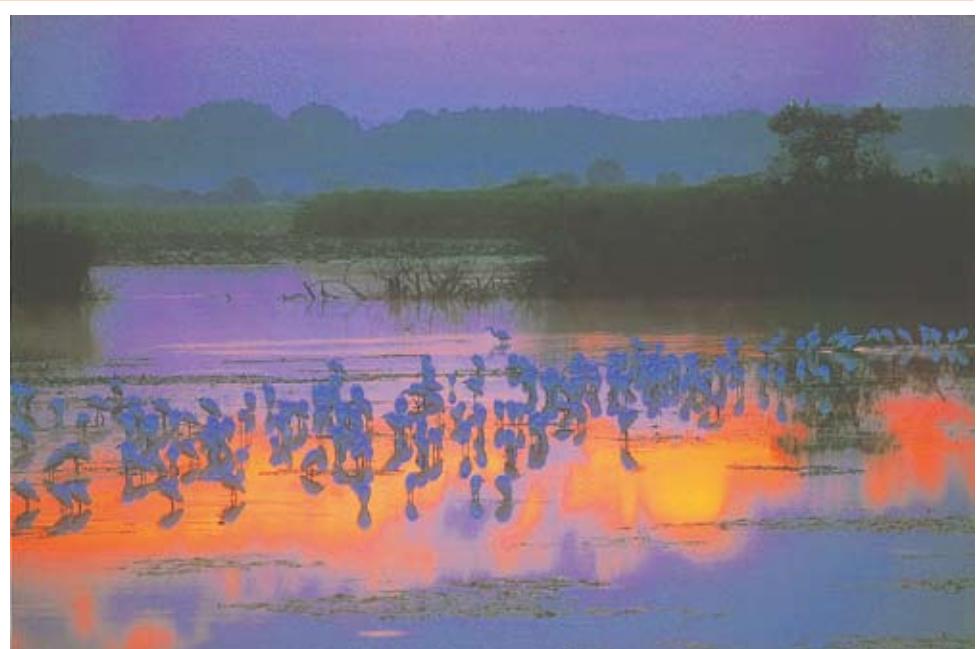
赤松 敏雄



(評) 夫婦らしき、人間と白鳥。及びカモたちとのふれあいの様子が捉えられています。黒っぽい衣服を着ていることで、若干イメージを暗くしてしまっていることが、おしいところで。二人の表情も良いですし、瞬間としてはとても暖かいだけに、とても惜しい作品です。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サングルチアリ友の会会長賞）「伊豆沼朝景」

佐藤 磨



(評) 朝の伊豆沼を撮影したものです。赤く染まった雲によって、水面の反射の効果を上げています。その一瞬を美しく捉えています。できれば、写真サイズ(四つ切り)で上部を1cmカットしてもう少し下部を出した方が、印象がより強くなります。

## 銅賞（河北新報社賞）

「早春賦」

千葉 稔



〔評〕 望遠レンズで、上手く捉えていることで、効果をあげています。スズメの一羽一羽が、個性がよくでています。様々の方角から、遠くを見ていて危険があるかを警戒しているようにも見えます。とても、面白い瞬間を捉えた作品です。

## 銅賞（朝日新聞社賞）

「秋マガノ集結」

伊藤 孝喜



〔評〕 ガンの群れを飛び立つ様が、的確に捉えられています。群舞するガンの群れたちの姿が生き生きと捉えられています。背景も何となく写っていることで、沼の状況が読み取ることができます。白鳥の姿やハスの枯れている状況で季節感がでてくることも良いでしょう。

## 銅賞（岩手日報社賞）

「静謐な情景」

佐藤 崇

〔評〕 モノクロ、そしてパノラマといった珍しい写真です。そこにサギの姿が明確に写し出され、今にも飛び立つのではないかと思われてくらます。モノクロ独特のトーンで静かな風景を見事に演出したのではないでしょうか。



## 銅賞（読売新聞社賞）

「滑走」

佐々木章逸



〔評〕 半逆光で撮った点が素晴らしいです。水しぶきの輝きが美しくとても見事です。シャッターチャンスを逃さず、なおかつ露出の的確さが素晴らしいです。2羽の白鳥が飛び立つ瞬間を見事に捉えている良い作品です。

## 銅賞（毎日新聞社賞）

「内沼の夏」

牛澤 陽介



〔評〕 夏の沼の風景である。ここを訪れる人がのんびりと、今の伊豆沼の姿をいそしんでいる様子が読み取れます。どことなく、のんびりとした正午の日本の風景が写っている点が良いです。ボートが在ったり、天気も良いとしても暖かい作品です。

入選 「レンコン掘り大会」 菊池 郁子



(評) レンコン大会と、それを見守る姿がとても面白い作品です。これから、レンコンを掘る人々の表情が優しい表情でとても暖かく、優しい作品です。

入選 「飛 翔」 早坂 昭夫



(評) 群舞するガンの姿と稻を干す様子が捉えられています。大空を飛ぶ鳥たちの迫力も魅了するものがある。少し惜しいのは、下部に白い車が二台在ることです。車が無い方が、もっと良い作品になります。

(評) ガンの姿にきっちりとピントをあわせ、なつかつ山の姿もきっちりと捉えている所が素晴らしいです。一ついうと、左下に鉄塔が写ってしまったことです。なるべく鉄塔などの人工物はさけて撮影した方が良いでしょう。

入選 「故郷 ふるさと」 阿部 圭吾



入選 「お花畑の散策」 太田 竹一



(評) サギが湖のハスの葉と葉の間から現れる魚の姿を探している様子を見事に捉えています。ハスの花で散策している姿は美しい情景ではあるが、それとは異なった弱肉強食の世界も写し出されています。

入選 「朝陽の中で」 佐藤三枝子



(評) 半逆光でハスの花は美しく輝く姿を的確に捉えています。ハスの葉にはキラキラと輝く水滴の姿。女性らしく、とても乙女チックな写真です。

入選 「湖沼静寂」 佐藤 善治



(評) 光跡を上手く捉えているつもりですが、気になる点が何点かあります。まず一つ目は、左下の船の光です。もう少しカメラを右に寄せて、船の光をなるべく短くした方が良いでしょう。もう一つは、もう少し露光時間を長くし、光跡を長くすると良い作品になります。この二点に気をつけてまた再度挑戦して下さい。

入選 「雫」 伊藤 正美



(評) 雫の光輝く姿をクローズアップして見事に捉えています。我々はもっと色々な視点で物を見てこういった、身近な物にも目を配ると素晴らしい物があると、思わせてくれる作品です。

入選 「風雪一人旅」 日野 俊文



(評) 寒く雪の降る中、サギが一羽が魚を求めている様子を捉えています。人が仕掛けた網に入った魚を狙っているサギはとても良い考え方をしています。寒く魚を探すには困難な時期を乗り越えるサギの賢い様子が見事に捉えられています。